



学校便り

令和5年度-NO.4

ノンバーバル・コミュニケーション

第一生命主催の川柳コンクールでこんな入選作品がありました。「店員が手とり足とりセルフレジ」ご高齢の方でしょうか、店員と一緒にレジと格闘する姿が目には浮かびます。セルフレジはコロナを機に増えたような気がします。ある回転寿司店では入店から注文、会計をして店を出るまで店員と一度も話をせずに完結するシステムが導入されています。人件費削減の企業努力もあるのですが、一抹の寂しさも感じます。「うまかったで」「おおきに、また来てや」とか「はい、一千万円な」「ほな、お釣り300万円」などの一連のやり取りは、古典落語の領域に入っていくのでしょうか。

6月4日のNHKスペシャル「アフターコロナ ～人に会うのがつらい～」によると、コロナ禍以降、人と会うのが不安と訴える学生が増えているそうです。人と話すことになぜか抵抗感がある、画面を見てしかしゃべれない、というのです。また、マスク着用によるコミュニケーションへの影響も指摘していました。怒りや嫌悪などネガティブな表情は口元に表れやすいため、マスクで口元が隠れていると表情を正しく認識するのが難しく読み違いも起こりがちになるそうです。「対面」と「リモート」での会話による脳科学実験も紹介していました。初対面の大学生5人が対面とリモートでそれぞれ会話をします。その時の脳活動の周期現象（お互いに感情を共有できているか）を調べます。オンラインでのコミュニケーションでは脳活動の同期が起きない、つまり感情の共有が難しいことが分かりました。リモート呑みで盛り上がったのは錯覚だったのでしょうか。人と人とが共感し合うには、対面で表情を見ながら会話をすることが重要なのですね。

来週は教育相談が行われます。これまでの電話や連絡帳のやり取りだけでは保護者の方と担任とは考えを共有できていなかったのかも知れません。やはり直接お会いして、表情を見ながらお話してこそ関係性が築けるのでしょうか。そのような機会を1学期のもっと早い時期に設けておく必要性を痛感しています。来年度に向けての課題です。

人はコミュニケーションを行う時、言葉よりも顔の表情や視線、身振りなどの方が、より重要な役割を担っているそうです。ある研究者は、言葉によって伝えられるメッセージは全体の25%にすぎず、残りの75%は話しぶりや動作、相手との間のとり方など言葉以外の手段（ノンバーバル・コミュニケーション）によって伝えられると分析しています。

セルフレジの前で今、必死にエコバッグを広げようとしているお客を尻目に、ひたすら「商品をお取り下さい」という音声を繰り返しているレジには、「見て分らんか」と言ってやりたいです。



(校長 河合 康一)

【7月の予定】

- 3日（月）朝会、クラブ活動
- 4日（火）～7日（金）教育相談（6校時なし、給食あり）
- 10日（月）クラブ活動予備日
- 18日（火）給食終了日 13時30分下校
- 20日（木）終業式 12時00分下校
- 21日（金）～8月24日（木）夏季休業期間



【8・9月の主な予定】

- 8月25日（金）始業式
- 8月31日（木）～9月1日（金）夏休み作品展(児童鑑賞のみ)
- 9月1日（金）給食開始
- 9月4日（月）朝会、委員会活動
- 9月14日（木）～15日（金）6年修学旅行
- 9月19日（火）クラブ活動、月曜時間割
- 9月30日（土）オープンスクール、水曜時間割
- ※10月2日（月）代休日

【一輪車のお礼】

先日、ご不用の一輪車があれば譲って下さい、とご依頼させていただきましたが、5台もの提供がありました。ありがとうございます。活用させていただきます。



【熱中症対策について】

学校では、熱中症計で暑さ指数（WBGT）を計測すると共に、環境省の「熱中症予防情報サイト」による予測を確認しています。暑さ指数（WBGT）が31を超える場合は、屋外での運動は原則中止します。登下校の時間帯でも日差しがきつい日があります。帽子の着用など、ご家庭でも熱中症対策をよろしくお願いします。

